

がんばってます！

今回の会員「がんばってます」のコーナーは、
野球審判歴33年の 小此木 光二さん をご紹介いたします。

小此木さんと言えば「野球の審判」、野球の審判と言えば「小此木さん」と、何の抵抗もなくイメージできる、カリスマ審判に質問形式で近況等審判談を語っていただきました。

まず、審判を始められた経緯をお聞かせ下さい。

昭和45年に、旧新田町の体育協会にて、体育指導員兼野球部長を担当していた頃、町内対抗野球大会で、ルール無視・罵声・ヤジ・大乱闘等何度も試合を中断する、マナーの悪い試合が行われました。これを見逃すことが出来ず、10数名にて審判部を設立。初代審判部長としてルールを基本とした、楽しい野球が出来るよう、グラウンド上の環境作りをしたいという思いから始めたのが経緯です。(昭和55年に公式審判の資格を取得以来33年間)

現在審判をされている試合はどんな方の試合ですか。

群馬県内の審判員は、組織が一本化に統一されていて、少年学童・中体連・高野連・社会人等全てを担当しております。

年間、何試合の審判をこなしていますか -

期間は3月～11月までで年間80～100試合になります。(昭和55年～平成24年までの公式戦実績は2,862試合です)

審判の楽しさ、やり甲斐はどんなことでしょうか。

朝家を出る時から始まりますね。服装・スパイク・用具のチェック、それから試合会場へは、試合開始1時間前に到着。今日どんなゲームが展開されるのか、想像しながら担当審判との試合前のミーティングに入る。この時の緊張感、何とも云えない楽しいものです。試合が始まり、色々な判定が繰り返され、緊張感を持続しながら試合は終了する。その後担当審判とのミーティングを終了して、はじめてホット一息つくことができます。ミーティングでは反省点を出し合い、次の試合に活かせるよう努力を重ねております。それからやり甲斐については、野球を通じ顔見知りになった多くの方と、挨拶を交わすことが出来ることや、友達が沢山増え、多くの仲間を支えられながら審判が出来ることは、本当に幸せ者ですね。

逆に辛いことはどんなことでしょうか。

野球も礼に始まり礼に終わるゲームですが、審判にとって一番つらいことは、少年学童の緊迫した試合で、エラーや四死球が重なり試合終了となるケースですね。こんな時、勝者は飛び上がって喜びますが、敗者は涙を浮かべて泣き崩れる姿を見た時、審判には辛い思いが過ぎりますね。

過去に審判を務められた試合で、特に思い出に残る試合を一つ挙げて下さい -

今迄に担当した公式戦2,862試合の中には、色々な思い出がありますが、私の一生の思い出とする試合は、平成元年4月22日に行われた、第41回春季関東地区高校野球大会7日目の、前橋高校対伊勢崎商業高校との試合で主審を務めた時のことです。伊勢崎商業高校の今井隆徳選手が、103球で14三振を奪う力投を見せ、完全試合を達成したのです。あの時のことは、今でも昨日のこのように思い出されますね。「あと一人」と言う掛け声、「大記録が出るぞ」との掛け声が入り交じるなか、最後27人目の打者は投手ゴロに打ち取られゲームとなりました。高校野球の完全試合は、昭和53年の第50回選抜高校野球大会(甲子園)にて、前橋高校の松本稔投手が、滋賀県の比叡山高校戦で全国初の完全試合を達成していますが、その時の今井投手は、群馬県内での公式試合で、初の完全試合を達成した選手だったのです。



凄い試合の審判を経験していたのですね。

よく野球は審判のボール1つの判定で、試合の流れが変わることもあると言われますが、特にこのような緊迫した試合では、気持ちを強く持つことが要求されますね。

最後になりますが、今後審判に寄せる思いをお聞かせ下さい。

審判員は礼儀を重んじ、しかも公平にて厳格でなければならない。そうすれば全ての人から尊敬される。また、規則を良く知ることが審判にとって最も大切な掟である。

「あらゆるプレーについて、最も良い位置をとれ」と、このことを常に頭に置いて良き審判を目指しています。これからも、グラウンド上だけでなく、グラウンドを離れても法規則・社会規則を守り、良き社会人・良き指導者として、普段から行動して行かねばならないと思っています。

お忙しい中、貴重なお話を有難うございました。これからも、審判そして後進の指導に益々ご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。

第四十一回春季関東地区高校野球大会第七日の二十一日、伊勢崎市民球場で前橋と対戦した伊勢崎商の今井隆徳投手(三年)が14三振を奪う力投で完全試合を達成した。前橋の松本稔投手が五十三年の全国高校選抜大会で演じているが、県内での公式試合では史上初。

今井 伊勢崎商 が完全試合 高校野球県内大会で初

スコアは8-0。投球数は103球。上手からの伸びのある速球に力強いスライダ1を織り交ぜ、前橋打線を力でねじ伏せ、最後の打者を投ゴロに仕留めた。また、この日、高崎城南球場で高崎商の原田悦男投手(二年)も佐波慶相手に参考

記録(七回コールド)ながら、完全試合を演じ、快挙が重なった。スコアは10-0。投球数は60球。奪った三振は二個と少なかったものの、緩急をつけた投球で、佐波慶を寄せ付けなかった。(関連記事 17、18面)

【伊勢崎商】	打	安	点	振	球
①	0	0	0	2	1
②	0	0	0	1	0
③	0	0	0	1	0
④	0	0	0	1	0
⑤	0	0	0	1	0
⑥	0	0	0	1	0
⑦	0	0	0	1	0
⑧	0	0	0	1	0
⑨	0	0	0	1	0
⑩	0	0	0	1	0
⑪	0	0	0	1	0
⑫	0	0	0	1	0
⑬	0	0	0	1	0
⑭	0	0	0	1	0
⑮	0	0	0	1	0
⑯	0	0	0	1	0
⑰	0	0	0	1	0
⑱	0	0	0	1	0
⑲	0	0	0	1	0
⑳	0	0	0	1	0
㉑	0	0	0	1	0
㉒	0	0	0	1	0
㉓	0	0	0	1	0
㉔	0	0	0	1	0
㉕	0	0	0	1	0
㉖	0	0	0	1	0
㉗	0	0	0	1	0
㉘	0	0	0	1	0
㉙	0	0	0	1	0
㉚	0	0	0	1	0
㉛	0	0	0	1	0
㉜	0	0	0	1	0
㉝	0	0	0	1	0
㉞	0	0	0	1	0
㉟	0	0	0	1	0
㊱	0	0	0	1	0
㊲	0	0	0	1	0
㊳	0	0	0	1	0
㊴	0	0	0	1	0
㊵	0	0	0	1	0
㊶	0	0	0	1	0
㊷	0	0	0	1	0
㊸	0	0	0	1	0
㊹	0	0	0	1	0
㊺	0	0	0	1	0
㊻	0	0	0	1	0
㊼	0	0	0	1	0
㊽	0	0	0	1	0
㊾	0	0	0	1	0
㊿	0	0	0	1	0
犠	0	0	0	1	0
失	0	0	0	1	0
残	0	0	0	1	0
5	4	0	12	34	145 2 8

【前橋】	打	安	点	振	球
①	0	0	0	3	0
②	0	0	0	3	0
③	0	0	0	3	0
④	0	0	0	3	0
⑤	0	0	0	3	0
⑥	0	0	0	3	0
⑦	0	0	0	3	0
⑧	0	0	0	3	0
⑨	0	0	0	3	0
⑩	0	0	0	3	0
⑪	0	0	0	3	0
⑫	0	0	0	3	0
⑬	0	0	0	3	0
⑭	0	0	0	3	0
⑮	0	0	0	3	0
⑯	0	0	0	3	0
⑰	0	0	0	3	0
⑱	0	0	0	3	0
⑲	0	0	0	3	0
⑳	0	0	0	3	0
㉑	0	0	0	3	0
㉒	0	0	0	3	0
㉓	0	0	0	3	0
㉔	0	0	0	3	0
㉕	0	0	0	3	0
㉖	0	0	0	3	0
㉗	0	0	0	3	0
㉘	0	0	0	3	0
㉙	0	0	0	3	0
㉚	0	0	0	3	0
㉛	0	0	0	3	0
㉜	0	0	0	3	0
㉝	0	0	0	3	0
㉞	0	0	0	3	0
㉟	0	0	0	3	0
㊱	0	0	0	3	0
㊲	0	0	0	3	0
㊳	0	0	0	3	0
㊴	0	0	0	3	0
㊵	0	0	0	3	0
㊶	0	0	0	3	0
㊷	0	0	0	3	0
㊸	0	0	0	3	0
㊹	0	0	0	3	0
㊺	0	0	0	3	0
㊻	0	0	0	3	0
㊼	0	0	0	3	0
㊽	0	0	0	3	0
㊾	0	0	0	3	0
㊿	0	0	0	3	0
犠	0	0	0	3	0
失	0	0	0	3	0
残	0	0	0	3	0
0	0	0	0	3	0
1	0	27	0	14	0
2	0	27	0	14	0
3	0	27	0	14	0
4	0	27	0	14	0
5	0	27	0	14	0
6	0	27	0	14	0
7	0	27	0	14	0
8	0	27	0	14	0
9	0	27	0	14	0
10	0	27	0	14	0
計	0	27	0	14	0

審判：小此木

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
伊勢崎商	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	8
前橋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
P小此木 1 川端 2 坂辺 3 高野											
球場名 伊勢崎市民球場											

伊勢崎商業高校が前橋高校を相手に、完全試合を行った時のスコア(当日記録したものをコピー)